

音楽の喜びを感じながら、進んで音楽にかかわる子どもを目指して

— 表現形態を選択する学習を通して —

音楽科研究会議

齋藤 和美¹

内田 薫²

飯島 裕美子³

大熊 真生子⁴

要 約

2002年度から実施されている学習指導要領において音楽科では、子どもたちが自分のよさを発揮しながら主体的で創造的な学習活動を、より活発に行うことができるようにすることを改善の基本方針の一つとしている。また、小学校や中学校において、学校や子どもたちの実態に応じて表現方法や表現形態を選んで学習できるようにすることが、新たに示されている。

川崎の子どもたちの学習の様子を見ると、音楽の授業を楽しみにしている子どもが大変多く、与えられた課題に素直に取り組む姿が多く見られる。しかし、自ら進んで表現の工夫をしたり、豊かな表現を求めたりする姿は多いとは言えない。

そこで本研究では、自ら進んで音楽にかかわる活動を積み重ねることが、生涯にわたって音楽を愛好する心情を育てていく基盤になると考え、音楽の喜びを感じながら、自分のよさを生かし、進んで音楽にかかわる子どもの育成を目指した。その具体的な研究の切り口として、表現形態を選択する学習を取り入れ、その意義や配慮すべき事柄を踏まえて、教材、アレンジ、練習カード、学習カードや振り返りカードなどを手立てとして検証授業を行った。その結果、音楽活動への子どもたちの興味・関心や学習意欲が高まり、進んで音楽にかかわろうとする姿やグループ活動の中で表現を工夫する姿が多く見られ、表現形態を選択する学習の有効性がうかがえた。

キーワード：音楽の喜び、学習意欲、選択学習、表現形態、アレンジ

目 次

主題設定の理由	122	6 検証授業に向けて	125
1 音楽科教育のねらいから	122	(1)検証授業のねらい	125
2 子どもの実態から	122	(2)具体的な手立て	126
3 研究のねらい	122	(3)検証方法	126
研究の内容	123	7 検証授業	128
1 研究の仮説	123	(1)中学校検証授業(2学年)	128
2 研究の方法	123	(2)小学校検証授業(6学年)	130
3 音楽の喜びとは	124	8 考察	133
4 進んで音楽にかかわるとは	124	研究のまとめ	134
(1)音楽にかかわること	124	1 研究を通して見えてきたこと	134
(2)進んで音楽にかかわる子どもの姿	124	2 今後の課題	135
5 表現形態を選択する学習	125	参考文献	136
(1)表現形態を選択する学習の意義	125	参考曲及び使用ソフト	136
(2)表現形態を選択する学習への配慮	125	指導助言者	136

¹川崎市立京町小学校教諭(長期研修員)

²川崎市立西有馬小学校教諭(研修員)

³川崎市立有馬中学校教諭(研修員)

⁴川崎市立中野島中学校教諭(研修員)

主題設定の理由

1 音楽科教育のねらいから

いつまでも音楽の好きな子でいてほしいと願うのは、音楽科教育に携わる者の共通の願いである。子どもたちには、豊かな音楽経験を通して音楽の楽しさや美しさを感じ取ったり、友達と響きを合わせて心豊かに表現することの喜びを味わったりしてほしい。そのような活動を通して、音楽活動の基礎的な能力や音楽に対する豊かな感性を育てていきたい。そのことが生涯にわたって音楽を愛好する心情を育てていく基盤となると考えるからである。

今回の学習指導要領の改訂では、完全学校週5日制の下、「ゆとり」の中で自ら学び自ら考える力などの「生きる力」の育成を基本とし、教育内容の厳選と基礎・基本の徹底を図ること、一人一人の個性を生かすための教育を推進することなどを基本的なねらいとしている。

これらのねらいに基づき、音楽科では、情意面と能力面のバランスのとれた教育を一層進めること、子どもたちが自分のよさを発揮しながら主体的で創造的な学習活動をより活発に行うことができるようにすること、ゆとりある学習活動の中で、音楽科の重視する資質・能力を確実に身に付けることなどを改善の基本方針としている。

音楽科で求める自ら学び自ら考える学習活動とは、子どもたちが様々な音楽や楽器に積極的に働き掛け、自分自身の感じ方や考え方を広げながら音楽表現を楽しみ、また音楽を聴いてそのよさや美しさを深く感じ取れるような学習活動を展開していくことである。

本来、音楽科の学習活動は、子どもたち一人一人が音や音楽に主体的、創造的にかかわっていかなければ成立しないものである。そのため、実際の学習指導においては、そのような学習の主体性や積極性(自ら学ぼうとする姿勢や態度)、音楽活動における創造性(自ら考え、つくり出す力)を子どもたちから引き出し、子ども自らが主体的に音楽にかかわっていく授業を工夫して展開していく必要があると考える。

2 子どもの実態から

子どもたちの実態を見ると、多くの子どもたちは音楽の授業を楽しみにしている。しかし学ぶ姿を見ると、与えられた活動は行うが進んで学ぶ姿は少ないように見受けられる。また、実際の授業においても「音楽的な技能や知識の習得を重視する傾向が強く、その結果、子どもたちが授業の中で自分たちの課題を発見したり、そうした課題意識を深めながら学習に取り組むという活動が十分に行われていない現状も見受けられた」¹⁾と言われるように課題も多い。

このようなことから、子どもたちが自ら進んで音楽にかかわり、音楽活動の喜びを味わえるような学習指導の工夫が必要であると考えた。そのような活動を積み重ね繰り返すことが、生涯にわたって主体的に音楽を楽しむ子どもの育成につながると考えるからである。

3 研究のねらい

そこで本研究会議では、子ども自らが主体的に音楽にかかわる音楽の授業の実現に向けて研究を進めていくことにした。子どもが主体的に音楽にかかわるためには、まず、子どもの興味・関心が高まるような学習活動を工夫していくことが必要である。その方法の一つとして、今回は「選ぶ」という活動に焦点を当てた。いくつかある選択肢の中から自分がやってみたいもの、自分のよさが生かせるものを「選ぶ」ことで、音楽活動を積極的に進めていこうとする意欲や態度がより育つのではないかと考える。

¹⁾高須一「初等教育資料」771号 東洋館出版社 平成15年8月号 pp.52-53

今回の学習指導要領では、指導計画の作成と各学年にわたる内容の取扱いの中で「第5学年及び第6学年の内容の「A表現」の指導に当たっては、学校や児童の実態等に応じて、合唱や合奏、重唱や重奏などの表現形態を選んで学習できるようにすること。」また、中学校においては、「第2学年及び第3学年の指導に当たっては、生徒の実態等を考慮して、生徒が表現方法や表現形態を選択できるように、小アンサンブルなどの編成を工夫すること。」と新たに示されている。これは、子どもたちの興味・関心を高めるとともに、子どもたちの思いや願いを実現するのにふさわしい活動であるとされており、一人一人のよさや可能性を生かす指導に結び付くと考える。

そこで、子どもたちが進んで音楽にかかわり、主体的に学習が進められるような学習活動について、表現形態を選択する学習を一つの視点として研究することとし、研究主題を次のように設定した。

< 研究主題 >

**音楽の喜びを感じながら、進んで音楽にかかわる子どもを目指して
- 表現形態を選択する学習を通して -**

研究の内容

1 研究の仮説

子ども自身がめあてをもって表現したい形態を選ぶことにより、興味・関心や学習意欲が高まるとともに、表現が豊かになり、音楽の喜びを感じながら進んで音楽にかかわろうとする子どもが育つであろう。

2 研究の方法

本研究会議では、図1の研究構想図に基づき、以下のように研究を進めることとした。

資料の収集

文献や先行研究から「進んで音楽にかかわる学習活動」や「表現形態の選択」などのあり方を探る。

授業の構想

仮説に基づき、表現形態を選択する学習を構想する。

仮説の検証

実践を通して「進んで音楽にかかわる姿」について検証、分析、考察する。

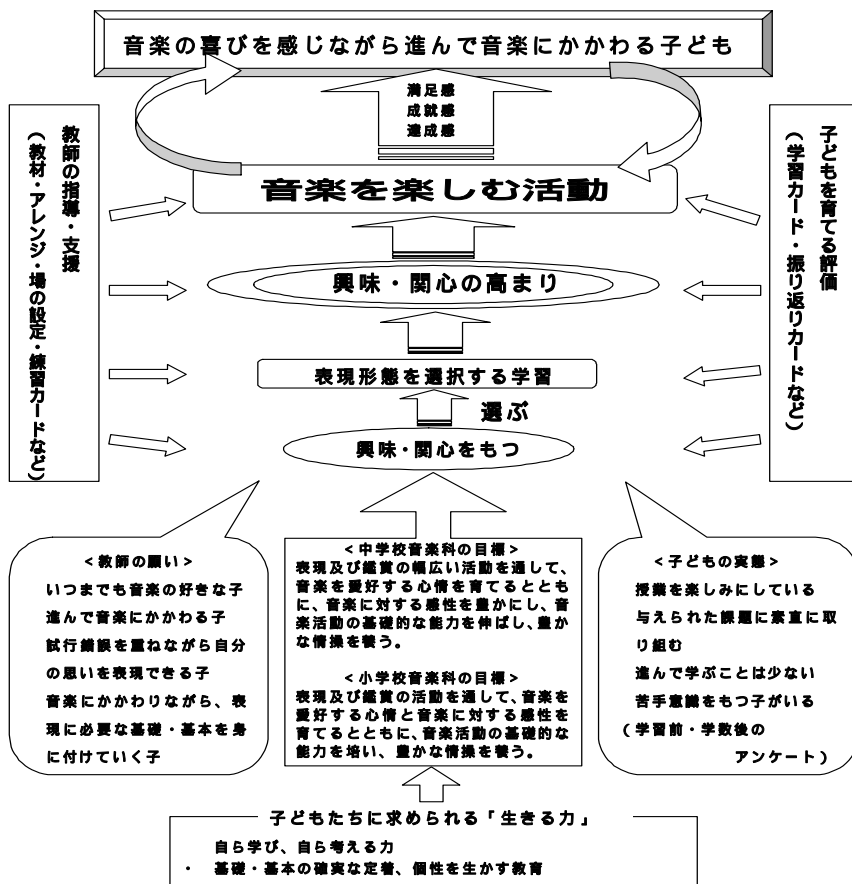


図1 研究構想図

3 音楽の喜びとは

表1 音楽の喜び

「音楽の喜び」については、教育課程審議会の答申における音楽科の改善の基本方針の中に「(イ)児童生徒が楽しく音楽にかかわり、音楽活動の喜びを得るとともに、生活を明るく豊かにし生涯にわたって音楽に親しむことを促すことを重視し、(後略)」と示されている。また、小学校音楽科の学習指導要領の改善の基本方針の中に「イ 児童が楽しい音楽活動を通して、表現や鑑賞の能力を高めるとともに音楽活動の喜びを味わい、生涯にわたって音楽に親しむ態度や意欲を育てることを重視する。」とある。

- 友達と一緒に演奏する一体感のある喜び
- 友達とかかわり合いながら共に創り上げる喜び
- 自分の力が発揮できる満足感のある喜び
- 感動の場を共有する喜び
- 音楽を通して心を通い合わせる喜び
- 美しい芸術的価値のあるものに触れる喜び
- 自分の思いを自由に表現する喜び
- ハーモニーの美しさや重厚感を味わう喜び
- 自分の思いが聴いている人に伝わる喜び
- 難しいことに挑戦して達成できた充実感のある喜び
- 美しい音楽を聴いて、心が動き、感動する喜び

「音楽活動の喜び」とは、具体的にはどのようなことを指すのであろうか。本研究会議では、表1のようにとらえ、このような音楽の喜びを感じながら、進んで音楽にかかわる子どもが育つ授業を目指したいと考えた。

4 進んで音楽にかかわるとは

(1) 音楽にかかわること

「かかわる」という言葉については、教育課程審議会の「答申」における音楽科の改訂の基本方針では、「児童生徒が楽しく音楽にかかわり、音楽活動の喜びを得るとともに、生活を明るく豊かにし生涯にわたって音楽に親しむことを促すことを重視し、(後略)」と示され、また、改善の具体的事項では、「児童一人一人が自らの感性を豊かに働かせながら様々な音楽にかかわり、楽しい音楽経験を得ることができるようにすることを重視し、以下のように内容の改善を図った。」と示されている。

「<かかわる>とは、極く普通には相互に関係することを意味するのであるが、その外に「打ち込む」とか「夢中になる」という意味もあり、かなり積極的なイメージをもつ言葉としても使われている。」²⁾したがって「音楽にかかわる」というのは、夢中になって音楽に打ち込むというように親しみを上回るほどのかなりのこだわりをもって積極的に音楽に接することを意味し、これからの音楽教育について「かかわり」を重視した音楽活動が展開されることが期待されている。

(2) 進んで音楽にかかわる子どもの姿

表2 進んで音楽にかかわる姿

進んで音楽にかかわる姿というのは、2ページで述べた自ら学び自ら考える活動と同様に、子どもたちが、様々な音楽や楽器に積極的に働き掛け、自分自身の感じ方や考え方を広げながら音楽表現を楽しんだり、音楽を聴いてそのよさや美しさを深く感じ取ったりするような学習活動を展開していく姿と考えることができる。具体的には、表2のような姿が考えられる。

- A 教材や活動に興味・関心をもつ姿
- B 目標を確認しながら活動している姿
- C 何度も繰り返し練習している姿
- D 表現を楽しむ姿
- E 自分から表現の工夫をしている姿
- F 進んで聴く姿
(きれいだな、もう一度聴きたいな、何の楽器だろう など)
- G 考えて活動している姿
- H 友達とかかわり合い(教え合い)ながら、よりよいものを求める姿
- I 自分の活動を振り返り次へ生かそうとする姿

²⁾ 金本正武・小原光一『新しい教育課程と学習活動の実際 音楽』東洋館出版社 1999年p.34

従って、検証授業に当たっても、常にこのような子どもの姿を求めながら、授業を計画、実践し、子どもたちが主体的に活動する時間を指導計画の中にしっかりと位置付けることとした。

また、子どもたちが進んで音楽にかかわるためには、「やりたい」「やってみよう」という学習意欲を育てることが重要となる。そのためには、学習の動機付けが大切であり、その「とき」としては、授業の導入時だけでなく、「さらに学びたい」という気持ちができるように、次の学習への動機付けこそが大切であると考えた。そのために、検証授業に当たっても、授業の導入段階とともに、学習過程やまとめの段階での動機付けについても考慮して行うことにした。

5 表現形態を選択する学習

(1) 表現形態を選択する学習の意義

今回の改訂で求められている「生きる力」を子どもたちが確実に身に付けるためには、音楽活動の基礎的な能力を単なる知識や技能として身に付けるのではなく、それらを生かして自分の思いや願いを実現する活動を積み重ねることが大切である。その場合、子どもたちが自分の意志で選択する場面をより多くすることには大きな意義があると考えられる。

小学校高学年になると、児童は自分なりの表現を大事にするようになり、表現活動に対して自分の思いや願いを強くもつようになる。また、音楽的な嗜好が強まり、「自分の好きな楽器を演奏したい」「自分の好きな形で表現したい」など自分にとって興味のある活動を一層深めたいという気持ちも強くなる。これは、低学年・中学年と音楽の楽しさを経験してきた子どもたちにとっては自然なことであり、このような子どもの願いを意欲として導いていくことが大切である。なぜならば、願いがあるからこそ、それに向かって自分で試したり、工夫したり、豊かな表現に向けて計画を立てたりすることができるからである。この活動を進めることにより、子どもたちはより主体的に学習に参加し、自分の思いや願いを実現することができるとともに、一人一人のよさや可能性を生かすことができる。そこで、指導計画を作成する際も、子どもたちが表現形態を選択することを想定した題材を設定する必要がある。

(2) 表現形態を選択する学習への配慮

表現形態を選択する学習は、単に活動を選択すればよいのではなく、子どもたちの思いや願いが実現する中で、音楽科の重視する資質・能力が確実に身に付くようにすることが大切である。そこで、題材のねらいを明確にした上で表現形態を選択する学習を取り入れることが重要になってくる。

なお、この活動を効果的に実施するためには、低学年のうちから、子どもたち一人一人が自分の思いを表現する活動を活発に行い、同じ曲でも表現の仕方を工夫することで、いろいろな曲の感じが表せることを実感として身に付けておくことが大切である。また、多様な表現方法や基礎的な技能を身に付けておくことも重要である。さらに、子どもたちそれぞれの力が発揮できる基盤として、子どもたちの興味・関心を引き付けるような魅力的な教材の準備や、学習しやすい場の設定などを工夫することが必要である。

そして何より、日常の学習の中で、子どもたちが自ら目的意識をもって学習を進めることができるように学習の仕方を身に付けていること、失敗を恐れずにのびのびと自己表現ができ、お互いを認め合える温かく前向きな学習風土が育っていることなどが強く求められる。

6 検証授業に向けて

(1) 検証授業のねらい

「音楽の喜びを感じながら進んで音楽にかかわる」姿を想定し、表現形態を選択する授業を行う。

活動の様子や表現の中で見られた「音楽の喜びを感じながら進んで音楽にかかわる」姿について分析し、考察する。

表現形態を選択することで、どのような「音楽の喜びを感じながら進んで音楽にかかわる」姿が見られたか、題材の目標が達成されたか、どのような力が身に付いたかを探る。

(2) 具体的な手立て

表3 教材選択の視点

興味・関心をもって取り組める魅力的な教材の準備

子どもたちが積極的に学習に取り組むために、表3の視点から教材を選択した。さらに検証授業を行う小学校・中学校のこれまでの音楽の授業展開や、子どもたちの音楽における育ちの状況を考慮し、表現形態を選択する学習にふさわしい教材として表4の曲を考えた。

- ・子どもたちが表現形態を選んで楽しく学習しながら、音楽表現を深めていくことができるもの
- ・題材のねらいを達成するのにふさわしいもの
- ・歌でも器楽でも表現できるもの
(小学校)
- ・いろいろな歌唱形態で歌えるもの
(中学校)
- ・実態に即して楽器や人数などが自由に編成できるもの

子どもたちの意欲や個性を生かすアレンジの工夫

子どもたちが演奏したい形態を選んで学習できるように、様々な演奏形態の楽譜を用意し、必要に応じてアレンジを加えた。

アレンジをする際には、声や楽器の音域を考慮するとともに、自分たちで練習が進められるように難易度を工夫した。また、どの演奏形態で演奏しても満足感が得られるように配慮した。

表4 表現形態選択学習に選んだ教材

- エーデルワイス
- ラバースコンチェルト
- カノン
(パッヘルベルのカノン・遠い日の歌)
- 星の世界
- 静かにねむれ
- ふるさと
- 語り合おう
- カントリー・ロード
- 大きな古時計

グループの話し合いを助ける練習カード

子どもたちが自分たちで相談しながら練習計画を立てる時の手助けとなるように、練習方法を示した練習カードを何種類か用意した。また、自分たちで考えた方法も取り入れられるように、白紙のカードも用意した。

< 中学校 練習カード >

音とり

発音をはっきり

美しい声の響きで

音合わせ

曲の雰囲気をとらえて強弱をつける

詩の内容を生かした言葉の表現で

(白紙)

< 小学校 練習カード >

パート練習

合わせる練習

表現の工夫

きき合う

学ぶ意欲を高める学習カード、振り返りカード

子どもたちが目標実現に向けて学ぶ意欲を高めていくための学習カードや振り返りカードを用意した。学習の見通しや積み重ねが実感できるように、題材を通して1枚のカードに表した。(図2、図3)

(3) 検証方法

観察

授業者及び参加観察者によって、子どもたちの表情の変化や特徴、演奏や学習活動における様々な行動、発言の様子などを観察した。さらにビデオによりその分析及び再確認を行った。その際、グループや個人の表現意図や課題意識を把握しておき、「進んで音楽にかかわる姿」の視点から、子どもがどのような学習過程でどのような力を身に付け、発揮しようとしているのかを観察するようにした。

学習カード、振り返りカード

子どもたちが自分(たち)の学習を振り返ったり、学習状況を自ら把握したりして、次の課題に向けて意欲的に学習を進めるようにするために学習カードを用意した。カードの作成に当たっては、カ

ードに記載する項目を指導目標に照らして精選し、焦点化するようにした。また、学習カードに記載する作業が音楽的な感動や喜びなどを損なわないように、適切な場面で行うように配慮した。

アンケート

子どもたちの実態を把握するために検証授業の学習前と学習後にアンケートを行った。内容は研究テーマに関する事柄に絞り、傾向がわかりやすいように回答は選択式とした。また、学習を通しての子どもたちの変容がつかみやすいように、学習前と学習後の設問を関連付けて行った。

演奏形態による響きの違いを味わおう

		年 組 番 氏 名		
めあて	いろいろな演奏形態を知り、それぞれのよさを味わおう。	自分が選んだ演奏形態で表現しよう。	曲にふさわしい表現を工夫し、お互いに味わおう。	
今日の学習と振り返り	演奏形態	選んだ演奏形態	よいところ、工夫しているところなど	
	音の響き、重なり、音色など	自分のパート	【学習を終えての感想を次の観点にそって書きましょう。】 楽しく学習できたか。 自分の力は発揮できたか。 演奏形態による響きの違いを味わうことができたか。	
		今日の練習でよかったところ		
		今日の練習で工夫したところ		
		今日の練習でよかったところ		
	今日の練習で工夫したところ	次の時間にやりたいことやアドバイスをほしいこと		
どこまでできたかな？		よくできた	できた	もう少し
1	自分のパートの音が正しく歌えた。			
2	発音をはっきりとし、美しい響きで歌えた。			
3	他の声部や他の人の声を聴きながら歌えた。(独唱は除く)			
4	情景を思い浮かべて、曲にふさわしい表現を工夫できた。			
5	友達と協力しながら練習ができた。	*		
6	自分から進んで練習ができた。			
		先生から		

図2 学習カード(中学校)

表現を工夫して「大きな古時計」を演奏しよう 年 組 名 前

演奏形態(独唱・斉唱・重唱・合唱・独奏・重奏 パート 楽器
器楽アンサンブル・歌唱+楽器)

学習計画を立てよう	学習内容	めあて	今日の学習で工夫したところ・よかったこと	次の時間に向けて
／	学習計画をたて、自分のパートをマスターしよう。			
／	グループで曲にふさわしい表現を工夫しよう。 [中間発表]			
／	発表会をしよう。 [発表]			学習を終えての感想
どこまでできたかな？		よくできた	できた	もう少し
1	自分のパートを歌ったり演奏したりできるようになった。			
2	他のパートと合わせることができた。(独唱・独奏はのぞく。)			
3	情景を思い浮かべて、曲にふさわしい表現を工夫できた。			
4	友達と協力して練習できた。			
5	自分から進んで表現を工夫したり、練習したりすることができた。			

図3 振り返りカード(小学校)

7 検証授業

(1) 中学校検証授業(2学年)

題材名 演奏形態による響きの違いを味わおう

題材目標 演奏形態による響きの違いを味わいながら聴いたり表現を工夫したりする。

育てたい資質や能力

- ・一人一人が興味・関心のある演奏形態を選び、自ら進んで音楽活動する態度。
- ・表現形態による響きの違いを感じ取る感性。
- ・活動を楽しみながら音楽表現を深めていく能力。

教材 「大きな古時計」

指導計画(3時間)

	ねらい	主な学習活動	・評価規準 <評価方法> 進んで音楽にかかわる具体的な姿
1	様々な演奏形態に関心を持ち、特徴をとらえるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な演奏形態について知り、それぞれの演奏形態の特徴や魅力などを感じ取りながら鑑賞する。 ・気が付いたことを学習カードに書き発表する。 ・「大きな古時計」を2部合唱する。 ・自分が学習したい演奏形態を選びグループをつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 【関心・意欲・態度】 ・静かに耳を傾けている。 ・学習カードに書き込みながら聴いている。 ・演奏形態の響きの特徴や魅力などに興味をもち進んで聴いている。 <聴いている様子の観察> 【鑑賞の能力】 ・演奏形態の響きの特徴や魅力などをとらえて聴いている。 <学習カード・発言内容> ・演奏形態を進んで選択している。 <活動の様子の観察>
本時	それぞれの演奏形態のよさを感じ取りながら、声の響きに気を付けて表現するようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に決めたそれぞれの形態ごとのグループで活動する。 ・練習カードを手掛かりに、自分たちで計画を立てて練習する。 ・練習が進んでいるグループの発表を聴き、よさを感じ取り自分の表現に生かす。 ・練習の感想や、今後工夫したいところなどを学習カードに記入し、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 【関心・意欲・態度】 ・課題意識をもちながら、グループやパートで協力して繰り返し練習している。 <活動の様子の観察・発言内容> 【表現の技能】 ・自分のパートの音がおおむね取れている。 ・響きに気を付けて歌っている。 <演奏の聴取> ・表現することを楽しんでいる。 <活動の様子の観察>
3	それぞれの演奏形態の響きの違いや魅力を感じ取るようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・発表の様子を小学生にビデオレターとして送ることを知る。 ・それぞれの演奏形態のよさや曲の感じが生かせるように表現を工夫する。 ・演奏形態ごとに発表し、ビデオレターをつくる。 ・友達の表現のよさに気付いて聴く。 ・練習の感想やそれぞれの演奏形態の特徴や魅力について、感じたことを学習カードに記入し、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 【感受や工夫】 ・強弱、言葉の抑揚やニュアンス、他声部とのかわりなどを意識して、表現を工夫している。 <演奏の聴取・活動の様子の観察> ・自分から進んで表現を工夫している。 <活動の様子の観察> ・自分の表現に自信をもち、表現することを楽しんでいる。 <発表の様子の観察・学習カード> 【感受や工夫】 ・演奏形態の響きの違いを感じ取っている。 <発言内容・学習カード>

授業観察記録の抜粋（第2時 検証授業）

- ・本時の目標 それぞれの演奏形態のよさを感じ取りながら、声の響きに気を付けて表現する。
- ・本時の視点
 - ・課題意識をもちながら、グループやパートで協力して繰り返し練習している。
 - ・表現することを楽しんでいる。

学習活動	進んで音楽にかかわる生徒の様子 教師の発問・助言	視点の具体的な姿（表2のA～I） ・教師の指導・支援
本時のめあてと進め方を知る	自分が選んだ演奏形態のよさを意識し、それが伝わるように練習しましょう。練習カードを使って、自分たちで練習計画を立てながら進めます。	・学習のめあてを明確にする。 ・練習カードは6種類用意し、必要に応じて書き加えられるように白紙のカードも用意しておく。
グループごとに練習する	<p>（カードを並べながら）次は何にする？ 「口を大きく開ける」は？ 「美しい声の響き」がいいよ。 その前に「強弱」じゃない？ その前に「言葉の表現」 これは難しいと思う。 これは最後だよ。 僕もそう思う。（多数） じゃあ「強弱」だね。 「口を大きく」開けることで「強弱」が付くから2枚並べて貼ろう。</p>	<p><カードの種類> 「音とり」 「発音をはっきり」 「美しい声の響きで」 「音合わせ」 「曲の雰囲気をとらえて強弱をつける」 「詩の内容を生かした言葉の表現で」 「（白紙）」 協力して話し合っている。G・H</p>
<p><女声2部合唱グループ> ソプラノ3人 アルト 3人</p>	<p>メトロノームでテンポを確認する。 強弱記号や大切にしたい言葉に印を付ける。 リーダーが拍を打ちながら練習する。 手のひらで音の高さや強弱を確認しながら歌う。 音の取りにくいところを何度も練習する。 それぞれオルガンで音を取りながら合わせる。 「うごかないー」のところを伸ばして歌う。 ウーは響きを前に、オーに近い感じで。（歌ってみせる。）</p>	<p>課題意識をもちながら練習している。B</p> <p>繰り返し練習している。C</p> <p>表現の工夫を楽しんでいる。D・E ・曲にふさわしい歌唱表現ができるように助言する。</p>
<p><混声3部合唱グループ> ソプラノ4人 アルト 3人 男声 4人</p>	<p>（男声）チクタクの歌い方、身体を使って（肩を上下させながら）表情を伝え合う。 （男声）ルーのなめらかな歌い方や丁寧な終わり方を指揮（身体表現）で表して伝える。 （男声）最後は少し小さめにしよう。 （アルト）息をしっかり吸って、響きに気を付けて。（口の開け方を個別に指導する） （男声）のどを締め付けないように。</p>	<p>表現の工夫を楽しんでいる。D・E</p> <p>表現の工夫を楽しんでいる。D・E</p> <p>よりよい演奏を求めている。H ・よりよい表現ができるように助言する。</p>
<p><アカペラグループ> ソプラノ3人 アルト 2人 男声 4人</p>	<p>（男声）「とけいさ」まではできるのですが、後がわからないのですが。 （テープに合わせて一緒に歌う。）わからなかったら手を付けるといいよ、上下にね。 （男声）そろそろテープなしでやってみたら。そしてできないところがあったら、後からそこだけ練習するといいよ。 ここの歌詞は明るい感じがいいね。 もっとこう。（口角を上げる仕草をする）</p>	<p>わからない所をたずねる。G</p> <p>・効果的な練習の仕方について助言する。 ・効果的な練習の仕方について助言する。</p> <p>自分から表現の工夫をしている。E よりよい演奏を求めている。H</p>
練習が進んでいるグループの中間発表を聴く	どのグループも一生懸命練習していました。まず斉唱グループ聴かせてください。 <斉唱グループ> 視線を上げ、口をしっかり開けて丁寧に歌う。（拍手）	自信をもって演奏している。D
感想を交流する	練習カードの「発音をはっきり」と「口を大きく」はできていたけど、「強弱をつける」はまあまあだった。	課題意識をもって聴いている。F
今日の振り返りをする	学習カードに記入する。 パートリーダーが今日の振り返りと次時のめあてを発表する。 みんなで合わせた時に音が取れなかったため、次回気を付けたい。	・次時のめあてを確認することで、意欲の持続を図る。 自分の活動を振り返り、次へ生かそうとしているI

(2) 小学校検証授業(6学年)

題材名 曲想をとらえて表現しよう

題材目標 曲想を感じ取って、想像豊かに聴いたり表現を工夫したりする。

育てたい資質や能力

- ・進んで音楽活動しようとする意欲や態度
- ・旋律や響きの感じ、歌詞の内容から情景を思い浮かべたり、曲想を感じ取ったりする感性
- ・曲想や歌詞の情景、気持ちから表現を工夫する能力

教材 「大きな古時計」他

指導計画(12時間のうちの5時間)

時	ねらい	主な学習活動	・評価規準 <評価方法> 進んで音楽にかかわる具体的な姿
第一次 旋律の特徴や歌詞の表す情景を感じ取って、楽器で演奏したり歌ったりする。			
4	歌詞から歌の情景や気持ちを想像して歌うようにする。 自分の表現したい形態を選択するようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・範唱を聴いたり、歌詞を読んだりして感じたことを話し合う。 ・フレーズごとに歌ったり、全体を通して歌ったりしながら旋律の感じをつかむ。 ・情景や気持ちを想像しながら歌う。 ・リコーダーで主旋律を練習する。 ・中学生からのビデオレターを見て感想を発表する。 ・どんな表現形態で演奏したいかについて考えたり、話し合ったりして自分の表現形態を決める。 	<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1番～3番の場面を考えて発言したり、曲想をとらえた発言をしたりしている。 ・伸び伸びと声を出して歌っている。 <発言の様子・演奏の聴取> ・関心をもって鑑賞し、いろいろな形態で歌われていることに気付く。 <発言の様子> ・自分の取り組む表現形態やパートを選んで選択している。 <活動の様子の観察・振り返りカード>
第二次 楽曲の感じや歌詞の内容から情景を想像し、表現の仕方を工夫したり音楽を聴いたりする。			
5	選択した表現形態のグループで表現を工夫するようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループで学習計画を立てる。 	<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の道筋を自分なりに考え、課題意識をもちながら、活動に取り組もうとしている。 <活動の様子の観察>
7	演奏を聴き合い、お互いにアドバイスし合うようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・曲の感じや歌詞の気持ちが伝わる演奏方法や表現の仕方を工夫する。 ・中間発表をして、他のグループの演奏を参考にしたり、他のグループにアドバイスしたりする。 ・アドバイス等をもとにさらに表現を工夫する。 	<p>【感受や工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・強弱、速さ、楽器の音色等に自分なりのこだわりをもって表現を工夫している。 <演奏の聴取・活動の様子の観察・振り返りカード>
8	曲想に合った表現を工夫して演奏したり、友達との表現のよさに気付いて聴いたりするようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想を生かして演奏する。 ・互いの演奏を聴き合い、工夫しているところや表現のよさに気づき、感想交流をする。 	<p>【表現の技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループの表現の工夫が伝わるように演奏している。 <演奏の聴取> <p>【感受や工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他のグループの表現の工夫を演奏から聴き取り、発言したり、カードに記入したりしている。 <発言の内容・カードへの記入> ・自分の表現に自信をもち、表現することを楽しんでいる。 <発表の様子の観察・振り返りカード>

授業観察記録の抜粋（第6時 検証授業）

- ・本時の目標 歌詞の情景や曲想に合う表現を工夫する。
- ・本時の視点
 - ・学習の道筋を自分なりに考え、課題意識をもちながら、活動に取り組もうとしている。
 - ・強弱、速さ、楽器の音色等に自分なりのこだわりをもって表現を工夫している。

学習活動	進んで音楽にかかわる児童の様子 教師の発問・助言	視点の具体の姿（表2のA～I） ・教師の指導・支援
<p>全員で「大きな古時計」を歌う</p> <p>本時のめあてと進め方を知る</p> <p>グループごとに練習する</p>	<p>「大きな古時計」を歌います。最後のコーダのところは、3つに分かれましょう。自分が歌いたいパートに移動する。コーダの3部合唱をする。きれいです。では、最初から。「大きな古時計」を3番まで歌う。</p> <p>今日はグループで「合わせて」「表現の工夫」まで行けるようにしましょう。表現の工夫で何をしたらいいか分からない時は、このヒントを見てください。（掲示物を指す）「聴き合う」のカードは自分たちの音だけを聴きたい時に出して、タンプリンを鳴らしてください。他の人は練習を止めてそのグループの演奏を聴き、アドバイスをしあってください。振り返りカードに学習計画やめあてを記入してから練習を始めましょう。</p>	<p>視点の具体の姿（表2のA～I） ・教師の指導・支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが選ぶ場面を設定する。 ・本時の活動に直接関係はないが、響きをつくる練習をする。 ・ときどき副旋律を歌いながら伴奏をする。3番は楽譜にあるようにテンポを落とし、曲想をとらえて表現しやすいようにする。 ・練習カードを示しながら説明し、カードの使い方もわかるようにする。 <練習カードの種類> 「パート練習」「合わせる練習」「表現の工夫」「きき合う」 ・聴く活動を大切にする。
<p><リコーダー独奏> 男子1人</p>	<p>高い音がスムーズに出るように練習する。練習の仕方を先生に聞きに行く。</p>	<p>繰り返し何度も練習している。C 課題意識をもちながら練習している。G</p>
<p><器楽アンサンブルA> 男子1人 女子5人</p> <p>リコーダー2人 鉄琴 2人 アコーディオン1人 ピアノ 1人</p>	<p>次は表現の工夫をしよう。掲示物の前に集まる。はずむ感じ？なめらかな感じ？私はなめらかがいい。なめらかがいい人、手を挙げて。6人中5人が手を挙げる。強弱は？どこを強くすればいいと思う？ピアノの周りに集まる。メロディーをピアノで弾く。（ドミソーミレドを聴いて）ここ、ここを強く。（ドミソーと弾いて）音が上がるからね。そうそう。（リコーダー）無理じゃない？あっそうか。リコーダーって難しいかもね。ドミソーを強く吹く。音が割れる。心を込めてね。（ソドド・レーを聴いて）ここも。（ソドドを強く、レーを弱く弾く）そうそう。つまり、こう。（楽譜にクレシェンド・デクレシェンドを書き込む）</p>	<p>学習の道筋を考えて活動している。B</p> <p>協力して話し合っている。H</p> <p>こだわりをもって強弱の工夫をしている。E</p> <p>友達と教え合いながらよりよい演奏を求めている。H</p>
<p><器楽アンサンブルB> 女子6人</p> <p>リコーダー2人 木琴 1人 鉄琴 1人 アコーディオン1人 ピアノ 1人</p>	<p>（ピアノの子に個人指導をする。）先生が左手を入れるから右手を弾いてごらん。うまくいかない。左手だけにしてみる？その方がやりやすいと思うけど。納得がいけない。階名唱をしたり、一緒に弾いたりする。（木琴）右手と左手で違うパートを演奏する練習。（アコーディオン）4音しか使ってなくてつまらない。合う音を付け加えていい？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の力に合わないパートを選んではまった子にアドバイスをする。 <p>新しい課題を見つけ、繰り返し練習したり、考えて活動したりしている。E・G</p>

<p><独唱> 女子1人</p>	<p>どんなふうに歌いたいかが楽譜に書き込んでおいてね。先生が伴奏するときに分かるから。強弱を工夫しよう。3番は弱めに。</p>	<p>・効果的な練習の仕方について助言する。 強弱の工夫をしている。E</p>
<p><重唱> 女子2人</p>	<p>3番「おじいさんのとけい」の部分をアカペラで重唱し、音の重なりを確かめる。 なんとかそろった。 「みなにおしえたのさ」をアカペラで重唱。さっきと同じ。 でも、だんだん弱く。 楽譜にデクレシェンドを書き込む。 少しずつ歌って確認。強弱を楽譜に記入。 コーダの下の部分の音が分からない。 テープで確認する。</p>	<p>強弱の工夫をしている。H 練習方法を考えて活動している。G</p>
<p><リコーダー+歌> (合唱奏) 男子2人 女子4人 ソプラノ アルト リコーダー *1番~3番で分 担を変える</p>	<p>パート練習をする。 そろそろ合わせよう。 練習カードを「合わせる練習」に貼り替える。 伴奏テープと高音のテープを流しながら歌う。 さんが低音がわからないから、もう一度パート練習にしよう。 再び練習カードを「パート練習」に貼り替える。 コーダ「いまは、もう、うごかないー」を合わせ る練習をする。 一緒に歌って音を確認する。 「そのとーけーいー」を歌うが、音が取れない。 キーボードを弾いて音を確認しながら一緒に 歌う。</p>	<p>話し合いながら協力して練習している。G ・楽譜から音を読んで歌うことに慣れていないので、パートごとに指導する。</p>
<p>中間発表を聴く</p>	<p>器楽Aグループ、発表してみますか？ 頷く。 強弱の印を楽譜に入れて練習しました。なめらかに演奏するように練習しました。 発表する。(リコーダー上下2人、鉄琴2人、アコーディオン1人、ピアノ1人) リコーダーの音が小さかったので、かたまって前の方でやった方がよいと思います。</p>	<p>友達のをよく聴いている。F</p>
<p>感想交流をする</p>	<p>では場所を変えて最初の方だけやってみましょう。音が変わるか聴いてください。 よく聞こえるようになった。(多数) 次は重唱のグループをお願いします。</p>	<p>・友達のアドバイスを実際にやってみて音で確認する。</p>
<p>中間発表を聴く</p>	<p>表現の工夫で大きさを変えてみました。大きくすると元気な感じ、弱くすると寂しげな感じになると思ってやってみました。 たとえばどこを弱くしましたか。 3番はおじいさんが天国へのぼるところなので、弱くしました。</p>	<p>・聴く視点をはっきりさせる。</p>
<p>感想交流をする</p>	<p>伴奏も3番を弱くすればいいですか。 3番まで重唱する。3番を弱く歌う。 3番になって急に声が小さくなって、悲しい様子が表れていました。最後まで消えるように終わって工夫していると思いました。</p>	<p>・一緒に演奏をつくり上げる姿勢を示す。</p>
<p>表現の工夫について教師の歌い方を聴く</p>	<p>今のように工夫した表現が聴いている人に伝わるのが大切ですね。 例えば、先生がだんだん強く歌ってみます。「おじいさんの生まれた朝に買った時計さ」どうでしたか？ ならない。 次はどうか。「天国へ昇るおじいさん時計ともお別れ」 最後が小さくなっていた。</p>	<p>・あまり強弱の変化を付けずに歌う。 ・だんだん弱く歌う。</p>
<p>振り返りカードに記入する</p>	<p>お別れのところが寂しいから小さく歌いました。この様に聴いている人に伝わるまで次の時間に練習をしましょう。 カードに今日の振り返りを書いて終わりました。 ちょっとアレンジを入れた。リズムがうまく取れるようにしたい。</p>	<p>・変化の伝わらない歌い方と伝わる歌い方を示し、表現の工夫は相手に伝わるように表現することが大切であることを知らせる。 自分の活動を振り返り次に生かそうとしている。I</p>

8 考察

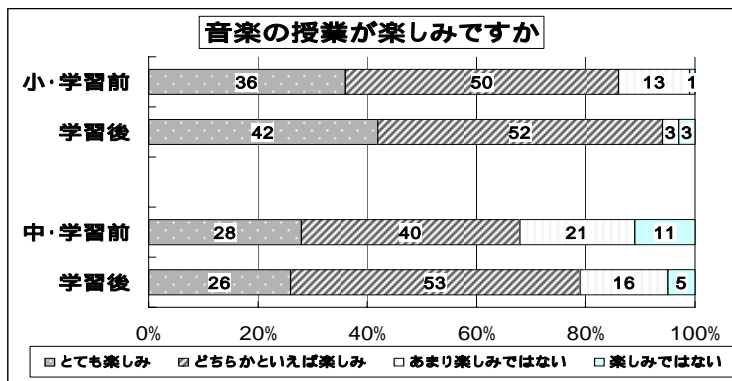
	中学校	小学校
教材	<p>今回教材として用いた「大きな古時計」は、子どもたちにとってなじみの深い曲なので取り組みやすく、授業の前後に口ずさむ姿も見られた。クラス全体での2部合唱も10分ほどでできた。また、曲想の変化も考えやすく、変化に応じて工夫する姿が見られ、短い曲なので各グループの発表も集中して聴くことができた。テンポや曲想の工夫などが期待できるため、3番まで歌いたいグループは取り組ませてもよかった。</p> <p>ビデオレターを送るに当たっては、小学生にいい演奏を聴いてもらおうと熱心に練習する姿が見られた。</p>	<p>子どもたちは「大きな古時計」の曲に親しみをもち、この学習が楽しかった理由の中でも多くが「曲が好きだから」と答えていた。3番までであるので表現の工夫がしやすかった反面、練習にも発表にも時間がかかった。</p> <p>ビデオレターでは、隣の学校の中学生在が一生懸命表現している姿を、熱心に視聴していた。「男の人の声が低いけど、高い方の声も出ていてすごいと思った。」「いくつものパートに分かれているいろいろな歌い方をしていた。」など近い将来像として憧れをもった感想が聞かれた。「自分たちもビデオに撮ってお返ししたい。」との声があがり中学校へもビデオレターを送った。</p>
アレンジ	<p>楽譜は2部合唱、混声3部合唱、アカペラ3部合唱の楽譜を用意した。子どもたちの音域を考えてイ長調にアレンジした。1時間目にクラス全員で2部合唱を学習したため、重唱や2部合唱を選んだ子どもたちは、グループに分かれてからの学習がスムーズだった。</p> <p>アレンジをする際は、跳躍音程を避け、歌いやすいふしになるように心掛けた。混声3部合唱は掛け合いのリズムが楽しいようにアレンジし、子どもたちも気に入っていた。アカペラは音の重なりが感じ取れるような楽譜を用意したが、音程を取るのが難しかったのでもう少しやさしくアレンジする必要があった。</p>	<p>今回は、歌唱の音域とリコーダーの運指を考慮した結果、違う調の楽譜を用意した。それぞれのグループがパートにも分かれているので、楽譜を読むところから練習していくことになった。しかし、テープを聴いて音を取ることに不慣れだったので時間がかかり、不確実な面も残ってしまった。同じ調の方が、ある程度まで一斉で行ったり、最後にまとめとしてクラス合同で演奏したりすることもできたと思われる。歌唱の2部合唱は、一見簡単なアレンジだが、メロディーが上から下に移ったり、オブリガートがあったり、低音が出しにくかったりした。子どもの学びの実態を見極めてアレンジする必要があった。</p>
練習カード	<p>話し合いの時間が効率的に使えた。また、黒板に貼ることで練習内容がはっきりしたり、他のグループの様子がわかって刺激を受けたり、学習の道筋が見えたりして、子どもたちの励みとなっていた。</p> <p>一方、グループの中でもパートによって進み方が違うので、カードに縛られてうまく練習が進められないパートもあった。自分たちで練習を進める学習に慣れてきたら、自分たちのペースに合わせて自由に計画を立てるようにしていきたい。</p>	<p>前題材でクラス全体での合奏を経験し、練習の進め方がある程度わかっていたことや、カードに書いてある項目がおおまかなものだったこと、個人練習に時間がかかったことなどから、子どもたちにあまり必要感が生まれなかった。</p>
学習カード	<p>自己評価の欄は今日の学習で身に付いた力を確認することができ、次時の学習のめあてへとつなげることができた。また、教師が子どもの思いやつまずきを知る手掛かりとなり、指導に生かすこともできた。</p> <p>学習カードに書いたことを発表するのに時間がかかったが、学習したことをクラスで共有することができた。しかし、まだ書くのに時間がかかるため、何を書くか、ねらいを踏まえてさらに検討する必要がある。</p>	<p>振り返りカード 子どもたちの活動が多岐にわたり、一人の指導者ではなかなか一人一人に応じた支援が難しい中、振り返りカードは子どもの思いを汲み取り、次の指導へ生かす意味で大変有効であった。</p>
表現形態を選択する学習	<p>表現形態を選択する学習を通して、日頃あまり発言しない子どもや、前に出たがらない子どもも、自分の役割をしっかりと果たそうとし、主体的に学ぼうとする姿勢が多く見られた。少人数で学習することになるので、一人一人が責任をもって学ぶことができた。演奏形態を選び、自分たちで工夫して練習する学習は初めてだったので楽しかったという感想が多く聞かれた。</p> <p>表現形態を選択するに当たっては、実際に様々な形態の演奏を聴き、響きの違いを味わってから行った。子どもたちはCDの演奏の中から気に入ったものや興味のある形態のものを選んでいった。</p> <p>具体的なおもりの姿として、独唱や重唱を選んだ子は、歌うことに多少自信のある子が多く、自分のよさを生かそうとしていた。斉唱を選んだ子は、音程を正しく歌うことに不安を感じている子が多く、安心して取り組める場を選ぶことで自分の力を発揮していた。また、アカペラを選んだ子は、興味を生かし、意欲的に活動していた。このように、それぞれの個性やよさを生かすことができ、友達によさや新たな一面に気付くこともできたようである。</p> <p>また、グループで協力して活動する姿も多く見られた。音高を手のひらで確認する、強弱記号に気を付けて練習する、メトロノームでテンポの確認をする、言葉の表情を生かして表現を工夫するなど、普段の学習で学んだことが生かされていた。安心して自己表現できる学習風土と、音楽活動の基礎的な能力を培っておくことの重要性が再確認された。</p>	<p>自分で取り組みたい表現形態を選択するという点に関しては「おもしろそう。」「やってみたい。」という意欲が子どもたちの中にあり、各自、興味のあるものを選ぶことができた。</p> <p>グループ活動では、グループの中で協力し、練習の仕方を話し合ったり、教え合ったりしながら自分たちで進めて行こうとする姿が見られた。また、そのように活動することが「楽しかった」と感想に書いている子どもが多かった。</p> <p>表現形態を選択するに当たっては、あらかじめどんな形態で演奏したいのかについてカードに記入してからグループづくりを行った。</p> <p>自分の思いや能力に合わせて工夫できるよさもあった。器楽アンサンブルでは、アレンジが易しかったので、自分で音を付け加えている子どもがいた。</p> <p>支援に関しては、一人一人がよく見える反面、グループの多さ、個の課題の多様さにどう対応していくかが難しかった。もう少しじっくりと支援をしたかった。題材のねらいと絡めて、支援のポイントをしっかりとつとめることが大切である。</p> <p>表現形態を選択する学習では、技能的に基礎がしっかりできている子どもや学ぶ姿勢が身に付いている子どもは、十分に自分の力を発揮し、自分なりの工夫を友達に伝えるなど、全体で取り組んだ時とは違った面での力も伸ばすことができ、楽しく取り組んでいた。しかし、目的意識をしっかりとてななかった子どもは、あまり自分の力を伸ばせないうまま終わってしまった面も見られた。</p>

研究のまとめ

1 研究を通して見えてきたこと

子どもの興味・関心や学習意欲の高まり

教材曲を、決められた表現方法だけでなく自分が演奏したい表現形態を選ぶ学習は、子どもたちにとって大変、興味・関心の高いものだった。それは、学習前と学習後のアンケート結果を表すグラフからも読み取ることができる。楽器に興味がある子は楽器を、歌唱が得意な子は歌唱を、同声合唱に



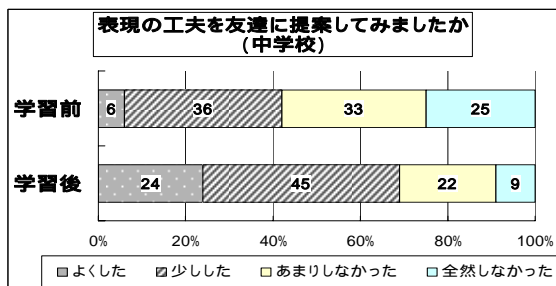
関心をもった子は同声合唱を、アカペラに挑戦したい子はアカペラを選ぶことで、学習意欲がさらに高まり、自分のよさを力を発揮しながら主体的に学習に取り組む姿が多く見られた。また、音程を正しく歌うことに苦手意識をもつ子どもが斉唱を選ぶことで、自信をもって取り組む姿も見られた。

<調査対象：小学校6学年4クラス 中学校2学年4クラス>

表現を工夫しようとする姿

それぞれのグループで曲にふさわしい表現を工夫した。少人数グループのため、自分の意見を出しやすかった様子がグラフからもうかがえる。

友達同士でいろいろな意見を出し合う中で、小学校では工夫するとはどういうことなのかを学んだ。中学校では、実際に自分たちでテンポや強弱、言葉の表情などについて、これまでの音楽の授業や学校行事の取組の中で経験してきたことを基によく考え、様々な工夫を試みる姿がたくさん見られた。



<調査対象：中学校2学年4クラス>

このように豊かな表現へと結び付く学びの過程が見られたことの意義は大きい。この学習が今後の授業の中でも自ら進んで音楽に取り組みながら豊かな表現を求めようとする姿勢の礎となると考える。

音楽の喜びを感じながら進んで音楽にかかわる姿

学習カードや振り返りカードの感想には、子どもたちが音楽の喜びを感じながら活動していた様子が数々うかがえる。124 ページの表1の「音楽の喜び」 ~ と合わせてみると、以下ようになる。

小学生・中学生の感想より	音楽の喜び
<ul style="list-style-type: none"> ・声を合わせて友達と歌うのがこんなに楽しいのかと思った。 ・自分たちだけでふだんやらない演奏の工夫をして楽しかった。 ・大きな声も出せたし、まわりの声を聴きながら合わせて歌えたし、感想なども積極的に言えて自分の力が発揮できた。 ・友達っていいな。 ・速さなどをいろいろと工夫しながら楽しくできた。 ・合唱をしている時に、自分たちの声が重なり、きれいに響いていたのが聞き取れたのでよかった。 ・少ない練習の中でよいものができてとてもよかったです。発表した後、みんなから「上手!」という声が聞けて少し自信が出ました。 ・楽しくできた。音楽はうまくなるのが自分でわかると楽しいと思った。 	

一方、学習後のアンケート結果(表5)の中で「あてはまる」と答えた数が多かった項目としては「イ、自分がやりたい演奏形態を進んで選ぶ」「ウ、友達と教え合いながらよりよい演奏をめざす」「エ、

できないところを繰り返し練習する」「才、楽しく練習する」等であった。これは本研究会議が求めた「進んで音楽にかかわる姿」(124ページの表2)の、A教材や活動に興味・関心をもつ姿、H友達とかわり合い(教え合い)ながら、よりよいものを求める姿、C何度も繰り返し練習している姿、D表現を楽しむ姿、が実現したものととらえることができる。

表5 アンケート結果

今回の学習についてあてはまるものに つけましょう	小学校				中学校			
	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
ア、演奏形態による響きの違いやよさなどに興味をもって聴く	*	*	*	*	39	58	3	0
イ、自分がやりたい演奏形態を進んで選ぶ	52	38	8	2	75	19	0	6
ウ、友達と教え合いながらよりよい演奏をめざす	43	39	16	2	61	33	6	0
エ、できないところを繰り返し練習する	60	33	7	0	58	39	3	0
オ、楽しく練習する	68	24	6	2	72	25	3	0
カ、自分から進んで表現の工夫をする	21	54	22	3	50	39	8	3
キ、自信をもって楽しく発表する	21	42	33	4	44	44	6	6
ク、友達の演奏を聴いて工夫したところをみつける	15	49	30	6	*	*	*	*

<調査対象：小学校6学年4クラス 中学校2学年1クラス> *は未調査 単位：%

実際に授業観察記録に見られるように、小学校・中学校共に男女でよく話し合いながら、よりよい演奏を求めて何度も繰り返し粘り強く練習したり、楽しく練習したりする姿が見られた。また、今まで授業に消極的だった子どもが休み時間に練習をしたり、家で練習をして来たりする姿も見られた。さらに、学習後自信をもって少人数でも発表ができるようになった子が増えたことから、この学習の有効性がうかがえる。

表現形態を選択する学習を通して子どもたちは、一つの曲でも表現形態によって、また表現の工夫の仕方によって曲の感じが様々に変わることや、いろいろな表現形態には、それぞれのよさがあることなどを学んだ。子どもたちの表現の仕方や視野が広がったことは大変意義のあることである。

2 今後の課題

豊かな表現力を求めて

教材やアレンジ、場の設定、練習カード、振り返りカード、個々に応じた支援や助言など、様々な手立てを考えて行った表現形態を選択する学習は、子どもたちが自ら表現したい形態を選ぶことにより、興味・関心や学習意欲が高まったり、そのことが音楽の喜びを感じながら進んで音楽にかかわろうとする姿に結び付いたりした点においては、この活動の有効性が実証できたと考えられる。この学習意欲の高まりが「もっと上手になりたい」「もっときれいに響かせたい」「もっと曲にふさわしい表現になるように工夫したい」と子どもたちの思いにつながり、さらに表現が豊かになることを願った。

しかし、表現の豊かさは残念ながら十分とは言えなかった。それは、子どもたちにとって、これまでの学習で身に付けてきた力の中で、自分たちの力で表現を高めていくことが主になるため、すべての子どもが曲想の工夫から豊かな表現へと発展させていくのには難しい面があったと考える。この活動を含めた日常の授業の中で、教師がどのようにかわり、指導・支援していけば豊かな表現を導き出すことができるかは今後の課題である。

系統的、連続的な指導の重要性

研究を通して再確認されたことは、高学年になって、表現形態を選択する学習にスムーズに取り組めるようにするためには、低学年から、それぞれの発達段階に応じて、音楽に対する感性や音楽活動の基礎的な能力を身に付けておくことが何よりも大切なことである。低学年からの積み重ねがなくては、学びの少ない活動に終わってしまう恐れがある。しかし、段階を追って進めていくことで、子ども

もたち自身が演奏形態だけでなく、教材曲も選んで活動する学習も考えられる。また、小学校でこのような経験を重ねて行くことで、中学校での活動も深まっていくと考えられる。

この学習は、見通しをもって系統的に、また連続的に指導を重ねていくことが大切であり、今後も、音楽の喜びを感じながら進んで音楽にかかわる子どもの姿を求めて日常の授業を積み重ねていきたい。

最後に、研究を進めるにあたり適切なご助言をいただきました先生方、研究にご支援、ご助言を下さいました学校教職員の皆様に、心より感謝し厚く御礼申し上げます。

【参考文献】

小原光一『豊かな心を育てる音楽指導』小学館	1986年
山田浅蔵『実践 音楽教育学』音楽之友社	1991年
金本正武『音楽科授業論』東洋館出版社	1997年
小原光一、山本文茂『音楽教育論』教育芸術社	1997年
『小学校学習指導要領解説 音楽編』文部省	1999年
『中学校学習指導要領解説 音楽編』文部省	1999年
金本正武、川池聡『新小学校教育課程講座 音楽』ぎょうせい	1999年
金本正武、小原光一『新しい教育課程と学習活動の実際 音楽』東洋館出版社	1999年
金本正武、小原光一『音楽科の授業をどう創るか』明治図書	1999年
金本正武『小学校学習指導要領の展開』明治図書	1999年
中学校音楽科教育実践研究会編『中学校学習指導要領の展開』明治図書	2000年
金本正武『小学校音楽科 基礎・基本と学習指導の実際』東洋館出版社	2002年
川池聡『小学校・中学校 新しい音楽科の指導と評価』教育芸術社	2003年
高須一 学習指導要領のねらいを実現する音楽科の指導と評価の充実 「初等教育資料」No.771 東洋館出版社	2003年8月

【参考曲及び使用ソフト】

- 『POP CHORUS』ミュージックエイトより「大きな古時計」
- 『New Chorus Friends 3訂版』教育芸術社より「大きな古時計」
- 『「NHKみんなのうた名曲集」&英語のうた - おお牧場はみどり - 』
新選・小学校 実践合唱指導全集 楽譜集14 音楽之友社より「大きな古時計」
- 『たのしいりコーダー ピポピポ』トヤマ出版より「大きな古時計」
- 『HELLO! MUSIC! for EDUCATION』YAMAHA

【指導助言者】

財団法人音楽鑑賞教育振興会常務理事 元文部省初等中等教育局視学官	小原 光一
千葉大学教授 前文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官	金本 正武
滋賀大学教授	中井 憲照
川崎市立小学校音楽教育研究会長（川崎市立東大島小学校長）	小林 洋一
川崎市立中学校教育研究会音楽科部会長（川崎市立向丘中学校長）	操 雅子
川崎市立小学校音楽教育研究会副会長（川崎市立幸町小学校長）	安藤ユキ子
川崎市教育委員会学校教育部指導主事	伊藤 民子
川崎市総合教育センター研修指導主事	吉田 和江